

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	看護学分野・在宅看護学領域
学籍番号		院生氏名	長澤久美子
通学キャンパス			
論文題目	男性を対象とした認知症家族介護準備プログラムの検討		
審査結果 (枠で囲む)	○合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文の内容と概略及び価値</p> <p>本研究では、認知症患者の在宅介護における男性による介護に注目し、介護経験のない男性を対象とした認知症家族の介護に備えた教育プログラムを考案しその有効性を検討した。2つの研究から構成され、まず親を介護している息子介護者の困難感を半構成的面接から質問項目を抽出し、ついで、認知症家族と同居する主介護者の横断的な調査から、介護の関連要因を検討し女性介護者と異なる男性介護者の特徴を重回帰分析で、比較検討した。</p> <p>これらの結果を、認知症介護に求められる知識や介護技術、ストレス対処法を取り入れ教育プログラムを作成し、そのプログラム受講の有効性を介入群、対照群(パンフレットによる自己学習のみ)と設け介入前・後、追跡調査まで行い両群の比較をしている。認知症の知識や認知症の対応の自信については効果が示された。</p> <p>本研究は、男性介護者に着目し介護準備のための新規開発プログラムの考案した点は独創性があり、その有効性を検証したことは意欲的で価値ある論文と思われる。</p> <p>2. 研究倫理面と利益相反、副論文の妥当性</p> <p>研究データの解析結果、論文上の記載に関しては、個人情報保護、匿名化の保証がなされ適切な倫理的配慮を行っていると考えられた。尚、本研究は当大学の倫理委員会の承認を受けている(承認番号 13-Io-193)。また、利益相反に関わる事象も本論文発表には認められない。副論文は1編あり、認知症家族と同居する主介護者の精神的な要因を横断的な調査で行い特徴を明らかにした論文であり、主論文のプログラム作成の基礎となっていると思われた。</p> <p>3. 論文審査結果</p> <p>平成 28 年 12 月 3 日 1 回目の審査会を行い、男性介護者の準備プログラムとしての有効性の結果の解析、考察に難点があり、男性介護者の各立場や要介護者との関係性からみたプログラムの精選が課題として指摘された。論文構成上の問題点として表の不備、文章表現の不十分なところを指摘し 1 月 5 日を期限として改善を求めた。1 月 4 日に論文が再提出され、その後論文審査担当者で再査読を行い、本研究の結果で可能なほぼ適切な修正が行われたと判断した。</p> <p>4. 口頭試問</p> <p>本研究に即したデータ処理の適切性や解釈、男性介護者の準備プログラムの有効性を検証するための対照群の設定を含めた今後の研究の方向性、などの質問を行い、適切な回答を得ることができた。</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(看護学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認め、さらに本人の今までの努力と今後の研鑽を期待し合格とした。</p>			
論文審査担当者	主査	今村 桃子	
	副査	亀口 憲治	
	副査	谷 浩明	